

季刊

# じぱ

Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

森 清氏 特許庁長官

わが社のこだわり

株式会社リコー

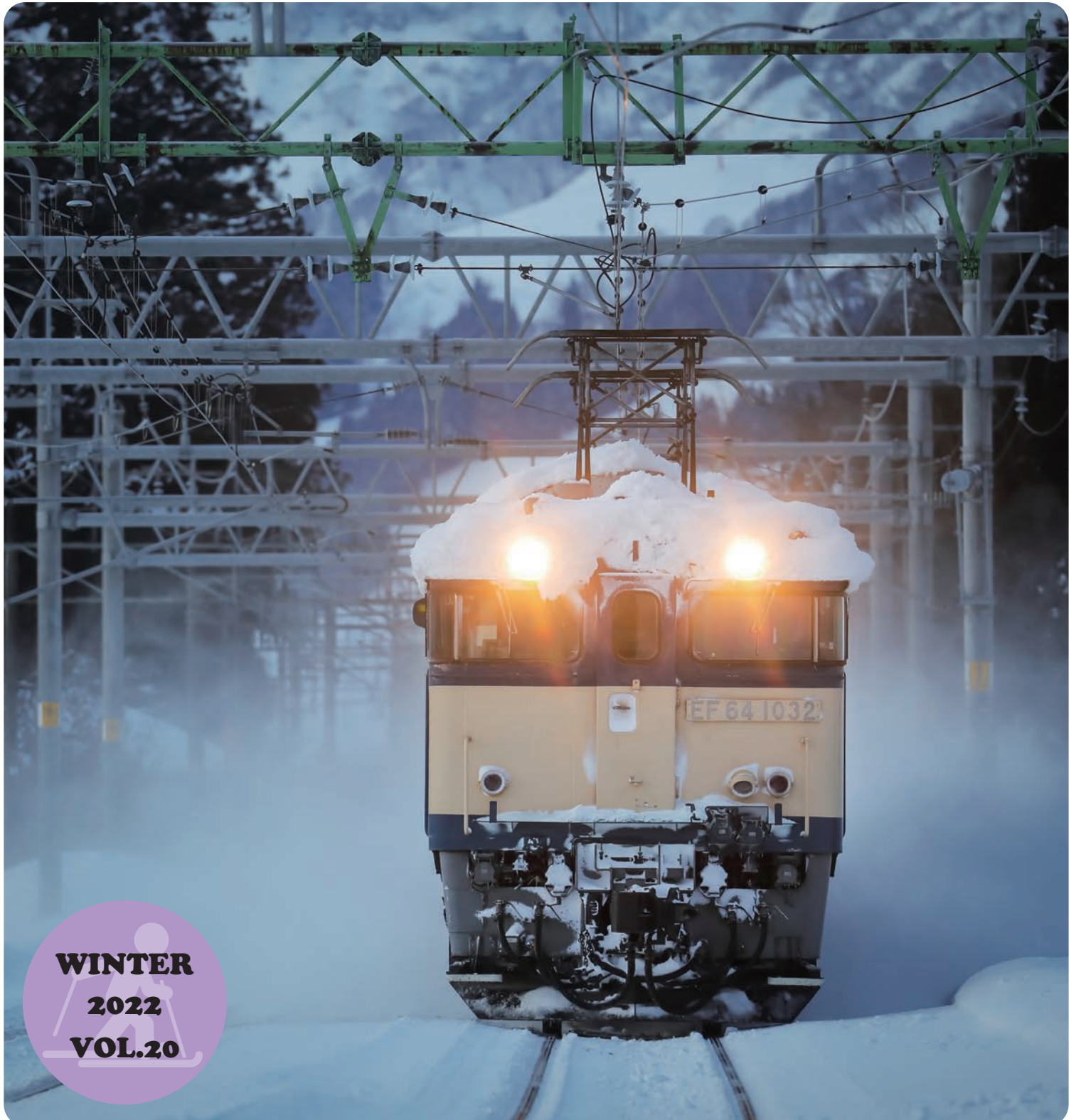
人々の"はたらく"をよりスマートに  
EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES

ZOOM UP

商標委員会

JIPA通信

JIPA知財シンポジウムの告知



WINTER

2022

VOL.20



Special INTERVIEW No.016

## ニューノーマルのもと 特許庁とJIPAはますます連携を強め 日本知財のプレゼンスを高めよう

森 清氏 Kiyoshi MORI (写真左)

特許庁長官

別宮 智徳 Tomonori BEKKU (写真右)

日本知的財産協会 理事長／日産自動車株式会社 知的財産部 部長



多彩なキャリアをお持ちの森特許庁長官に  
特許庁の施策、MVV、JIPAへの期待などについて別宮理事長がインタビューを行った。

### 多彩なキャリアと長官就任の抱負

**別宮** 多彩なご経歴をお持ちですが、特に印象深いものをお聞かせください。また、7月に特許庁長官にご就任になられましたが、抱負を改めてお聞かせください。

**森** 企業や外国の方に会えると思って通商産業省に入省しましたが、入省して本当に良かったと思っています。課長補佐のときは気候変動関連業務などに携わり、京都議定書のトップランナー制度を作る仕事をしまして、技術についてたくさん勉強しました。2003年に管理職となって11年ほど中東・アジア・アフリカへのエネルギー協力の協議に携わりました。その後、インターネット政策の国際調整において日本の窓口となりましたし、直近では関西万博誘致と基本計画策定に携わり、どれも印象深い業務でした。

特許庁長官としての抱負ですが、まずは3,600名ほど在籍する巨大組織のマネジメントを重視しています。職員に快適に働いていただきつつ、ますますユーザーの皆様にご満足いただけるような施策を行っていきたいです。コロナ禍のもとでは、最大7割のテレワークの実施とサービス水準の維持の両立に努めています。また、各国の特許庁で課題となっているAIの活用やデジタル化においても、世界の最先端を進みたいと思っています。

### 特許庁の取組について

**別宮** ご就任挨拶で挙げられていた特許庁の取組についてお聞かせください。

**森** 産業財産権の円滑な施行が第一と考

えます。世界最速・最高品質の審査を引き続き堅持するとともに、ユーザーの皆様のご意見をしっかり取り入れていきます。3庁(日本国、米国、欧州の特許庁)・5庁(3庁に加え、中国、韓国の特許庁)の中において、日本が率先してイニシアチブを取ること大事だと考えており、ここのところ毎週のようにオンライン会合を実施し、なるべく多くの方と意見交換をしようと努めております。また、WIPO GREEN活動は日本の産業界のイニシアチブの賜物ですので、特許庁としても積極的に応援しており、いろいろな会合で必ず言及しています。2025年大阪・関西万博に向けて、社会課題解決のための新たなアイデアを創造し、社会に実装する人達を輩出するI-OPENプロジェクトというものも行っており、万博にも産業界と一緒に貢献したいと考えています。

### 特許庁のミッション・ビジョン・バリューズについて

**別宮** ご就任挨拶においては、コロナ禍の先も見据え、職員が同じ方向に向かって進むための旗印として、ミッション・ビジョン・バリューズ(以下MVV)を更新したことに触れておられます。

**森** 知的財産関連の業務においてイノベーションの促進はとても大事なことです。MVVは糟谷前長官が先導して設定されたものですが、幹部も含め、職位や部署の異なる職員が平場で議論して決定されたことが素晴らしいと思います。いいものが出来ましたので、このMVVは各国特

許庁にも広めたいと思っています。知財エコシステムやイノベーションなどのキーワードはWIPOのMedium-Term Strategic Planとも共通しています。

**別宮** 大勢の職員を同じ方向に向かわせるのは大変なことだと思います。MVVに加えて何か働きかけをされていますか。

**森** テレワークが常態となり、職員の意思疎通を図るのが難しかったことがありました。テレワークを前提とする新しい事務執行の姿について、ボトムアップで議論しているところです。

### 産業界との関わりとJIPAへの期待

**別宮** 今後も企業との意見交換を進めていけるでしょうか。また、特許制度ユーザーの民間団体であるJIPAへのご要望などがあれば、お聞かせください。

**森** 企業や産業界とは、年200件から400件のヒアリングを実施しています。去年から意見交換を希望する企業等の公募を開始しております。ユーザーの意見を聞いてこそ良い業務ができると思っていますので、引き続きコミュニケーションを活性化していきます。コーポレートガバナンス・コードなど、広範な議題で良いと思いますので、活発な意見交換を続けていきたいと思います。

JIPAの機関誌「知財管理」を熟読していますが、各国の最新動向など参考になる記事が多く、大変勉強になっています。今後も特許庁と一体となって、国際的な日本の知財の産官学の位置づけを高めていくことをよろしく願いいたします。

わが社のこだわり [株式会社リコー]

# 人々の"はたらく"をよりスマートに。 EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES

石島 尚 Hisashi ISHIJIMA

日本知的財産協会 常務理事  
株式会社リコー 理事 プロフェッショナルサービス部 知的財産センター 所長
**RICOH**  
 imagine. change.


リコーグループは1936年の創業以来、革新的なテクノロジーに基づいた光学機器や画像機器などを通して、世の中に新しいイノベーションをもたらし、お客様とともに成長してきました。

今、人々の生活や働き方は大きく変化しています。こうした変化に対応するために、私たちはOAメーカーからの脱皮とデジタルサービスの会社への事業転換を進めています。そしてその先の未来を描き、創業100年に向けた私たちの想いを2036年ビジョン「"はたらく"に歓びを」という言葉に込めました。業務の効率や生産性向上を超え、働く人の充足感や達成感、自己実現に目を向けて、「はたらく"に歓びを創り出すことが私たちの使命であると考えています。

「EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES」。はたらく人の創造力を支え、ワークプレイスを変えるデジタルサービスを提供していきます。

## デジタルサービスの会社へ

リコーは1977年にOA(オフィスオートメーション)を提唱し、オフィスで働く人を単純作業から解放し、創造性を活かした働き方の実現を目指してきました。この理念をニューノーマル時代に相応しい形で実現するために、デジタルツールとエッジデバイスでお役立ちをしていきます。例えば、複合機で様々な形態の請求書をスキャンし、人工知能OCRで生成したデータをRPAにより業務システムと連携させてデータ入力を自動化します。(写真中下)

コア技術と独自のアイデアで社会課題の解決にも取り組み、SDGsの達成に貢献する新しい価値を生み出していきます。例えば、道路やトンネルの老朽化に伴う安全管理が社会課題になっています。安全管理のため行う路面やトンネルの点検については、専用車両を用い、しかも人による目視確認を行うことも必要で、作業時の危険があり手間もかかっていました。リコーは、これまで培ってきた光学技術や画像処理技術などのコア技術を応用し、一般車両で路面・トンネル点検を行うことができる撮影システムを開発しました。このシステムにより、安心安全な社

会インフラ管理の実現を目指しています。(写真右下)

## 情報ドリブンの知財活動へ

デジタルサービスの会社では、世界中に存在するビジネスの現場のデジタル化に取り組みます。そこでは、ビジネスを展開するさまざまな国で、さまざまなステークホルダーとの競争や協業に供するイノベーションを知財化し活用していくことが求められます。

土地勘もないこのようなビジネスフィールドで知財戦略を策定し実践していくため、その前提として、当該フィールドにおける自他社の技術力や知財力を明らかにし、全体俯瞰するための情報解析活動を強化しています。

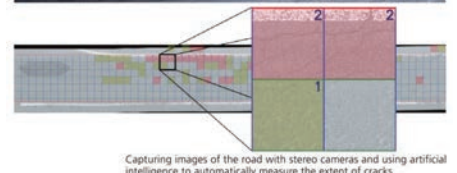
さらに発明のコンセプト化や権利化方向性の決定といった、出願権利化の根幹に係るプロセスでも情報解析結果を活用していきます。日々の知財業務で、知財部員一人一人が情報を使いこなして価値の高

い特許を生み出す、情報ドリブンの知財活動を目指していきます。

## JIPAに期待すること

リコーでは、知財部員の専門性研鑽の場としてJIPA主催の研修を活用しています。加えて、専門委員会等への参画を通じた企業・業種の枠を超えた活動が、知財専門家としての視野を広げ、社外とのネットワークを形成する貴重な機会となっています。

知財活動の変化・広がりに伴い、知財専門性を深めるだけでなく、その範囲を広げていく必要があります。つまり、新たな知識の習得や柔軟な発想が知財部員に求められており、これらに対応できるような人材育成への取組みを期待いたします。



Capturing images of the road with stereo cameras and using artificial intelligence to automatically measure the extent of cracks.



## みなさまと共に創り、一人一人が成長できる場、それが商標委員会！

商標委員会は、商標やブランドに関する調査研究や意見発信を行います。調査研究は、複数のWGで検討し、意見発信は、国際会議や審議会、関係機関との意見交換会への参加、パブコメへの意見書提出など、正副委員長を中心にみなさまが関わられる形とし、一体感のある活動を心がけています。

コロナ禍以降はWEB型の会合が中心です。WEB型は、参集型に比べ、合間の時間に近くの人と会合の目的以外の会話をすることで思わぬ気づきや知見を得る“目的のないコミュニケーション”を図りづらいためです。このため、ランダムグループ分けで懇談する時間を設けるなどの工夫をしています。今後の

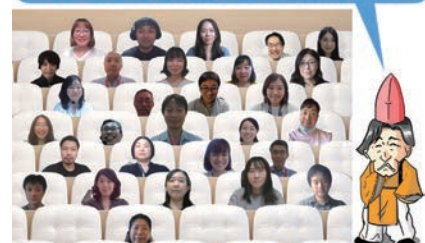
withコロナ時代では、双方の利点を活かした活動を行いたいと思っています。

商標委員会の良さは、さまざまなバックグラウンドをお持ちの方々が集まり、商標やブランドに対する“熱い”想いのもと、何でも楽しく前向きに取り組もうとする雰囲気があることです。そのおかげで、一人一人が成長し、結果として会員企業のみなさまに有益な成果物・意見発信ができる好循環があります。私自身、会社の業務では経験できない種々の活動に携わり、実務的にはもちろん、人間的な成長も実感し、活動を通じて深めた委員の方々との絆は一生の宝となっています。このような委員会の雰囲気を醸成してくださった、歴代の委

員長、委員のみなさまには心から感謝しています。私も“熱い”想いでこの貴重な場を発展させ、引き継いでいきたいと思っています。

会員企業のみなさま、そのような商標委員会への参加をぜひご検討いただくと幸いです。ご応募お待ちしております！

商標委員会一同、みなさまのご応募、お待ちしております！！



2021年10月 Web全体会合



齋藤 浩二  
Koji SAITO

日本知的財産協会 常務理事  
株式会社アシックス  
法務・知財統括部  
法務・知財統括部長付

ブランドは究極の知財、との意気込みで商標委員会の熱い議論にお邪魔させてもらっています。リモート環境下でも明るく前向きな姿勢が伝わってきます。商標実務周りの議論に留まることなく、経営に資する知財に向けて知財全体及びその周辺事象をも俯瞰した議論に仕向けられるよう意識しています。また、そのためにも商標委員会の活動の場を広げられたらと考えています。誰もが「参加して良かった」と思えるよう、「熱意」を持って活動を支えていく所存です。

## JIPA通信 JIPA知財シンポジウムの告知

2月2日(水)、東京国際フォーラム及びWeb上にて、第21回JIPA知財シンポジウム「SDGsに向けた日本企業の成長～イノベーションを興し、知的財産で加速～」を開催(ハイブリッド形式)します。講演の部では、WIPO事務局長ダレン・タン氏より、世界の動向、日本企業への期待についてビデオメッセージをいただくと共に、Japan Innovation Networkの西口尚宏氏には、イノベーションの視点よりSDGs活動についてご講演いただきます。またパネルディスカッションの部では、企業の知財担当者間で、SDGs活動と知財の役割について、事例を通じて深掘りします。現在JIPAホームページにて参加受付中です。ご登録お待ちしております。

URL: <https://www.jipa.or.jp/form/21sympo.html>



表紙の写真は…

## 「上越の守護神」

キヤノン株式会社 ICB製品31設計室  
中村 浩史

厳冬期の上越線、始発前に人知れず走る電気機関車—EF64 1000番台は、この季節ならではの重要な役割を担っています。上越地区では夜間、架線にツララが発生しやすく、ツララでパンタグラフの集電が阻害されると、スパークが発生し機器に支障が生じてしまいます。それを防ぐために、この機関車がパンタグラフで霜を削り取りながら上越線を往復し、始発前に架線および線路の状況を万全に整えています。この機関車は廃車車両の回送などに使用されることで有名ですが、安全運行を支える「守護神」でもあるのです。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を[会誌広報グループkikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp)てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。